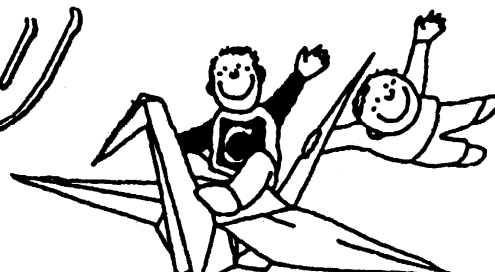


# ジュラーヴリ

## ЖУРАВЛЬ



### チェルノブイリ事故31周年の集い

チェルノブイリ・フクシマを結んで  
深めよう交流と支援！ めざそう 人権と補償の確立！  
フクシマを核時代の終わりの始まりに！

#### 《プログラム》

- \* 31年目のチェルノブイリ被災地報告  
振津かつみ（チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西）
  - \* 紙芝居～浪江消防団物語「無念」  
救援関西・劇団二人
  - \* フクシマ事故6年～被災地での聞き取りから
  - \* グループ討論
  - \* アピール など
- ＜救援バザー：ベラルーシ民芸品、手作りケーキなど＞



日時: 4月30日 午後1時半～16時半

場所: 大阪市立総合生涯学習センター 第1研修室（大阪駅前第2ビル 5階）

問合せ: 072-253-4644 (いのまた) 0797-74-6091 (たなか)

集いでは、4月中旬にチェルノブイリ被災地を訪れ帰国したばかりの振津さんから、被災地のホットな情報をお届けします。また、「救援関西・劇団二人」による、紙芝居～浪江消防団物語「無念」を上演します。この紙芝居を制作された「まち物語政策委員会」（広島）と「浪江まち物語伝え隊」（福島・浪江）の方々のご厚意で、今回、紙芝居をお借りすることができました。一人でも多くの皆さんに観ていただきたいと思います。その後、今後の取り組みについてグループ討論を行いたいと思います。

また救援バザーとして、購入したてのマトリョーシカなどのベラルーシの民芸品、恒例の「救援関西・パティシエ・タナカ」による美味しい手作りケーキなどもあります。

「救援関西」は25年間にわたりチェルノブイリ被害者との支援・交流に取り組んできました。その中で、私たちもチェルノブイリ・ヒバクシャから多くのことを学びました。そして「繰り返さないで！チェルノブイリ」と訴えてきました。それにもかかわら

ず、2011年に東京電力福島第一原発の重大事故が起こる前に日本の原発が止められなかったことは痛恨の極みです。

この6年間、私たちはフクシマ事故被害者の方々との交流・支援にも取り組み始めました。

ヒロシマ・ナガサキそしてチェルノブイリとフクシマを結んで、多くの皆さんとつながって、「フクシマを核時代の終わりの始まりに」をめざし、核被害者の人権と補償を確立に向けて少しずつでも進んでいけたらと思います。

多くの皆さんの参加をお待ちしております。

（同封のチラシ参照）

この紙芝居は昨年アニメ化され、全国各地で自主上映会が取り組まれています。

今年3月にはフランスでも上映されました。



## 事故31周年を迎えるチェルノブイリ被災地に行ってきます

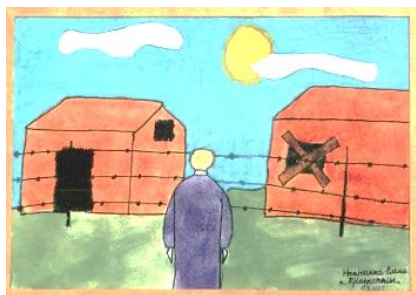
### ～チェルノブイリとフクシマを結んだ取り組みを

### さらに進めるためにも～

昨年は「チェルノブイリ30年・フクシマ5年」の節目ということで、「救援関西」だけでなく、多くの皆さんと協力して、ベラルーシ、ロシアからチェルノブイリ被害者の代表の方々を日本にお招きし、またフクシマとヒロシマ・ナガサキの方々もお招きして、大阪での国際シンポジウム、福島での交流、原水禁大会への参加などに取り組みました。それは、チェルノブイリとフクシマを結んで、被害者の健康と生活を守るために原発事故被害者どうしの交流深め、体験を共有し、学び合う取り組みの新たな一歩となりました。そして、原発事故被害者の人権と補償の確立をめざす取り組みを具体的に進めるための国際的なネットワークを作っていこうとの提案もなされました。さらに核被害者＝ヒバクシャとしての体験を広く共有し、継承し、「フクシマを核時代の終わりの始まり」にしていく運動も強めていこうとの思いも皆さんと確認しました。

4月15～27日、「救援関西」として、ベラルーシとロシアのチェルノブイリ被災地を代表訪問します。昨年度は「救援関西」としては、チェルノブイリ被災地へ支援・交流に出かけることができなかったのが、今回は支援カンパなどもしっかり届けてきたいと思います。またこれまでの「チェルノブイリとフクシマを結んだ」取り組みをさらに進めていくためにも、今年度はフクシマ事故被害者の方々とともにチェルノブイリ被災地訪問・交流をしたいと考えています。そのための具体的な準備と話し合いをすることも今回の訪問の重要な目的のひとつです。同時に、これまでチェルノブイリ被害者の健康と生活、人権を守るために取り組まれてきた被災地での様々な努力、「チェルノブイリ法」制定と実施の経緯や現状について、さらに事故31年経ったチェルノブイリ被害者の健康と生活、その思い、被災地の現状についても見聞きしてきたいと思います。

ベラルーシでは①ミンスク、マリノフカ地区の「移住者の会」、②「移住者の会」の代表のジャンナさんの故郷で人々が移住をしなければならなかったゴメリ州の高汚染地のナローブリア訪問、③モギレフ州の汚染地のクラスノポーリエ、チェリコフの学校、幼稚園、病院、障がい者センター等、を訪問。そしてロシアの汚染地ノボジプコフの NGO ラディミチを訪問し、地域の医師、教師とも交流をする予定です。また4月26日には、ノボジプコフでの「チェルノブイリの日」の行事にも



参加したいと思います。

28日に帰国し、30日には「ホットな報告」を皆さんにお話しします。そして今後の取り組みについても話し合いたいと思います。「チェルノブイリ31周年の集い」にぜひご参加下さい！

「救援関西」事務局・振津かつみ

## ヒロシマ・ナガサキ、チェルノブイリ そしてフクシマを結んで

“救援関西”が1991年秋に活動を始めてから早や四半世紀。去る12月11日に25年を振り返り、協力くださった大勢の会員さんに感謝を伝える集いを持ちました。

まず、代表山科和子さんのTVインタビュービデオ「長崎の証言」を見ました。原爆投下から数日間の長崎の惨状、亡くなられたご家族、山科さんも体調が悪化し親戚を頼って長崎を後にしたことなど、そして戦争も原爆も決して繰り返してはならないとの思いを語っておられます。

山科さんは車椅子で会場へこれ、皆さんに「ありがとうございます、こうして“救援関西”が25周年を迎えられたのも、皆さまのご協力のおかげです。私も生ある限り頑張っ参ります」とご挨拶され、参加者一同、山科さんの気迫に感激し、鼓舞されました。

次に、“救援関西”の25年を振り返り、これからの活動につなぐ～新たな一歩を踏み出しましょう～と、事務局の振津さんから基調報告がありました。

◎“救援関西”発足の背景にはヒロシマ・ナガサキの被爆者の運動があり、世界のヒバクシャとの交流・連帯や、「チェルノブイリのような重大事故を繰り返してはならない」との反原発の思いが活動の原点

◎振津さんが訪れた5年後の被災地ベラルーシの被害状況

◎「チェルノブイリ法」制定に向けて現地の運動

◎“救援関西”が積み上げてきた、支援・救援／交流／日本で放射線被曝の危険性を訴える、などの活動

◎世界の反核・反原発運動と連帯して取り組んだ、被害の過小評価への批判／チェルノブイリ・ヒバクシャの人権を守るための国際署名活動

◎フクシマ事故後の新たな取り組み、事故被害者への支援と交流など

◎今後の活動「フクシマを核時代の終わりの始まりに」

などなど、25年間の全部を網羅することは無理ですが、会場でも皆さん、いろいろなことを思い出して、感慨にふけておられました。

後半は、クラスノポリエの女の子(13才)の詩「よもぎの地のかえで」朗読(長沢由美さん)でスタートし、参加された方々によるリレートーク。ベラルーシ訪問で歓待されたこと／帰ってから被災地で見聞したことを伝える活動／地域での支援の輪を拡げる取り組み／活動の様々な苦労話などなど。25年ってアッと言う間で昨日のように思えることも多々ありますが、こうして振り返って1つ1つを語っていただくと長い間の活動の継続、皆さん大したものだなあと、活動の端っこにいる者として感心しきり。多くの方々の参加と応援があつてこそ、ここまでやってこられたのだという思いを深くする、各人各様のお話でした。

「繰り返さないで！チェルノブイリ」を合言葉に始めた活動が、フクシマ事故によって新たな展開をもたらした“救援関西”の25年間。チェルノブイリ被害者との支援・交流を続けてきたグループだからできるフクシマ支援もあると思われます。みなさんご協力をよろしく！！

(50周年までは無理だけれど、まだしばらくは手作りをやってゆく  
「歩くカンパ箱」の、タナカでした)





## 2017 年 3 月 12 日 さよなら原発 3・12 関西アクション

あれからもう 6 年。大阪では、中央公会堂・中之島公園のさよなら原発関西アクションに 1500 人が集まりました。

午前の講演では、元放射線医学総合研究所主任研究官・医学博士の崎山比早子さん、脱原発法制全国ネットワーク代表世話人弁護士の河合弘之さん、福島飯館村より原発被害糾弾飯館村民救済申立団団長の長谷川健一さんが報告されました。

崎山さんは、原発の問題は最終的には健康の問題と話されました。NPO 法人放射線教育フォーラムで、有田文科大臣は、「つまるところ原子力の安全性は放射線の安全性。放置すると、人々が放射線を恐れて原子力の需要が進まなくなるから、怖がらないようにしなくてはならない」と発言したことを批判され、「放射線の健康影響にはしきい値はなく、低線量でも統計的には必ず影響があることは、もうわかっていることなのに、20 ミリシーベルト基準はとんでもなく高い」と訴えました。

河合弁護士は、「時代は脱原発。今まで原子力村の力は強く負けつづけたが、今後は攻勢に出る。正直、最近では映画ばかり作って映画監督になった感があるが、裁判では必ず本質を暴露し、勝っていく。高速増殖炉もんじゅの廃炉が決まった後、政府は新たな実証炉計画出しているが、中身はなにもない。いまこそ攻勢をかけるべき。」と意気高く呼びかけました。



報告する長谷川さん

長谷川さんは、飯館の住民の現状と意見を訴えました。「もとは三世代で生活し酪農に人生をかけていた。政府が言う 20 ミリシーベルト基準はどういうことか。住民との協議はない。国との約束はことごとく破られた。私はチェルノブイリを訪問し汚染地の 30 年後を考えた。サマシールの老人たちがどうなったかも見た。隣国中国からは、なぜ日本は福島をの教訓を学ばないのかと言われた。私達や親世代は飯館に未練があるのは事実だし帰してやりたい。が、子ども達は帰らない。帰せないんです。若者と

子どもが住めないということは、未来はないということです。」

延べ参加者 1500 人は少ないようにも思いましたが、たしかに、河合弁護士の言われるように時代は脱原発。嘘やごまかしのぼろがどんどん出てきています。原発は安くて経済的？原発なかったら電気が止まる？日本経済が破たんする？規制庁の点検受けたから地震の心配はもう大丈夫？言ってる尻から化けの皮が剥がれています。

避難者や、原発立地点からの力強い発言がつづき、再稼働阻止・原発いらないヒバクいらないを訴えて、御堂筋デモをしました。ゴーワクの石橋さん、伊達さんや、名古屋で託送料金の署名いっぱい





集会アピールを読む由美さん

集めてくれた杉本さん、日ごろからお世話になっている創作バレエ「ダンスコアポシビル」の小谷先生ともお会いできて、元気をもらいました。

何としても、原発止めないと始まらない。

日差しの色が変わり春の声を聴くと、4月26日と3月11日を思い出す。

由美

「署名にご協力をお願いします」

## 福島事故関連費と原発コスト(合計 8.6 兆円)を 「電気の託送料金」に転嫁しないでください

福島事故損害賠償2.4兆円  
廃炉費不足分6兆円  
廃炉積立不足金0.2兆円  
計8.6兆円

を  
「電気の託送料金」  
に転嫁しよう  
**しめしめ！**



新電力契約者にも、  
電力消費者にも負担  
を義務づけよう

今後、費用が増え  
ても消費者に負担さ  
せるのだ。

**なんとか  
いまのうちに！**

この 8.6 兆円は本来、福島事故に責任をもつべき東京電力や原発を有する九電力会社が自らの経営努力で負担すべきもので、電力消費者に負担義務はありません。原発を持たない新電力から競争力を不当に奪い、電力自由化の趣旨にも反します。電力自由化に生き残れない原発をムリヤリ動かすための施策はもう止めるべきです。署名にご協力をお願いします。

併せて、福島の仲間の皆さんが全国で呼びかけている「東電第二原発の廃炉署名」も同封していますので、ぜひご協力下さい。



## 2016 年 会計報告 (2016.1.1～12.31)

|           |      |               |         |
|-----------|------|---------------|---------|
| チェルノブイリ支援 | 収入   | カンパ           | 354,715 |
|           | 支出   | カーチャさん招待補助    | 50,492  |
|           | 差し引き |               | 304,223 |
|           | 繰り越し |               | 528,847 |
|           | 現在高  |               | 833,070 |
| 保養支援      | 収入   | カンパ           | 128,700 |
|           | 繰り越し |               | 38,676  |
|           | 現在高  |               | 167,376 |
| 子ども元気     | 収入   | カンパ           | 23,600  |
|           | 現在高  |               | 23,600  |
| フクシマ支援    | 収入   | カンパ           | 43,000  |
|           | 支出   | ゴーワク支援        | 100,000 |
|           | 差し引き |               | -57,000 |
|           | 繰り越し |               | 299,911 |
|           | 現在高  |               | 242,911 |
| 運営会計      | 収入   | 会費・カンパ        | 276,000 |
|           | 支出   | 紙・印刷費(2015 年) | 45,348  |
|           |      | 送料(ジュラード等)    | 163,530 |
|           |      | 賛同金           | 30,320  |
|           |      | 事務費           | 4,832   |
|           |      | その他           | 4,000   |
|           |      | 小計            | 248,030 |
|           | 差し引き |               | 27,970  |
|           | 繰り越し |               | 71,080  |
|           | 現在高  |               | 99,050  |



\* チェルノブイリ支援: 諸事情で 2017 年に持ち越す。

\* 保養支援: 2015 年に支援した 10 人分のうち 5 人分が 2016 年に繰り越されたので結果として 2016 年は特に支出していない。(2015 年、2016 年に 5 人ずつ支援)

## カンパ・会費の納入ありがとうございました！ (2016.10.3～2017.04.13)

折口信夫 清水昭 田原良二 旦保立子 松田高志 奥平純子 森重子 稲田みどり 藤田達  
 長谷川育子 宇野田陽子 梅原桂子 高木祥伍 庄田政江 原発の危険性を考える宝塚の会  
 染木富美代 長沢由美 田岡ひろみ 川辺比呂子 馬庭充子 藤尾周作 富田洋香 斉藤日出治  
 曾我日出夫 熊沢滋子 栗田千加子 崎山昇 末田一秀 向井千晃 木村英子 坂岡隆司  
 山崎知行 鎌田妙子 匿名 1 名 (順不同・敬称略)

## カンパ・会費納入のお願い

あっという間に桜の散る頃になりました。久しぶりのジュラブリです。



「救援関西」は昨年11月に発足25年を迎え、12月に「発足25周年の集い」を行いました。25年にわたって、ささやかではありますが活動を続けてこられたのも、ひたすら皆様のご支援とご協力に支えられてと深く感謝いたします。本当にありがとうございます。

早速で誠に恐れ入りますが、カンパ、会費の納入をどうぞよろしくお願いいたします。「救援関西」は皆様のご支援とご協力のみを支えられて活動をしています。この経済的にも厳しき折ではありますが、なにとぞ、ご協力をよろしくお願いいたします。

4月にはチェルノブイリ被災地を訪れ、支援と交流を深めてきます。また夏にはチェルノブイリの子ども達、フクシマの子ども達の保養にも支援したいと思います。どうぞ変わらぬご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

### 《4.26「チェルノブイリの日」に関電に再稼働反対の申し入れをしましょう》

皆さん、それぞれの思いを申し入れましょう。

日時:4月26日16時から～

場所:関電本社1階ロビーに集合

(予定:関電に申し入れの申し入れ中)

### 「救援関西」発足25年誌できました！是非ご覧ください！



「救援関西」発足25周年にあたり、発足から今までの活動をまとめた記念誌を作成しました。作成にあたり、多くの方々にご協力いただき、ありがとうございました。この記念誌が多くの人とつながっていく一つのきっかけになればと思います。是非、手に取ってご覧ください。

ご希望があれば郵送させていただきますので、事務局までご連絡をください。

(頒価:500円+送料)

ニュース発行:チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西事務局

連絡先:〒591-8021 堺市北区新金岡町 1-3-15-102 猪又方

Tel : 072-253-4644

e-mail: [cherno-kansai@titan.ocn.ne.jp](mailto:cherno-kansai@titan.ocn.ne.jp)

郵便振替:00910-2-32752

口座名:チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西